



南葵音楽文庫ミニレクチャー

音楽の温故知新

～スナール室内楽シリーズから～

近藤秀樹

2019年6月22日(土) 11:00
南葵音楽文庫閲覧室(和歌山県立図書館内)

南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel.073-436-9500



ジル=マルシェックス (アンリ・マチス画)

1. スナール室内楽シリーズにおける *Musique ancienne*

- スナール (Senart) はフランスの音楽出版社。1908年創立。1941年にサラベール社に売却。
- 室内楽シリーズ
年二回の定期刊行物(要予約)。楽譜のセット+付録の冊子。
買い揃えると室内楽の楽譜の一大コレクションが完成。
1921年にスタート。1927年ころまで続いた？
- 南葵音楽文庫は、この室内楽シリーズのほぼ全体を購入(経緯は不明)。
▣シリーズの全体像が把握できる。[『南葵音楽文庫紀要』第1号参照]
- 室内楽シリーズの5つのカテゴリー
「ピアノ」「ヴァイオリン」「チェロ」「アンサンブル」「歌とピアノ」
- 意欲的なラインナップ
A. フランス内外の若手作曲家の作品を紹介: *Musique moderne*
B. 過去の名作を発掘: *Musique ancienne*
各号、各巻(5つのカテゴリー)が、常にAとBを含む。AとBの比重: 約3/1
- *Musique ancienne* の中身
バロック期の音楽から19世紀の音楽まで、幅広く含む。 cf. 古楽復興運動
- 今日のテーマ: *Musique ancienne* から、ジル=マルシェックス編リユリ《パサカイユ》を。

2. リュリ 《ペルセ》より 〈パサカイユ〉 (ピアノ編曲: シル=マルシェックス)



ジャン=バティスト・リュリ
(Jean-Baptiste [de] Lully 1632-1687)

- フランス盛期バロック音楽の作曲家。
- ルイ 14 世の宮廷楽長および寵臣。
フランス貴族社会で権勢をほしいままにした。
- フランス語オペラ (叙情悲劇 *tragédie lyrique*
または音楽悲劇 *tragédie en musique*) を創り出す。
- 詩人フィリップ・キノー (Philippe Quinault, 1635-1688) の台本で
数々の歌劇を作曲、熱狂的な歓迎を受ける。

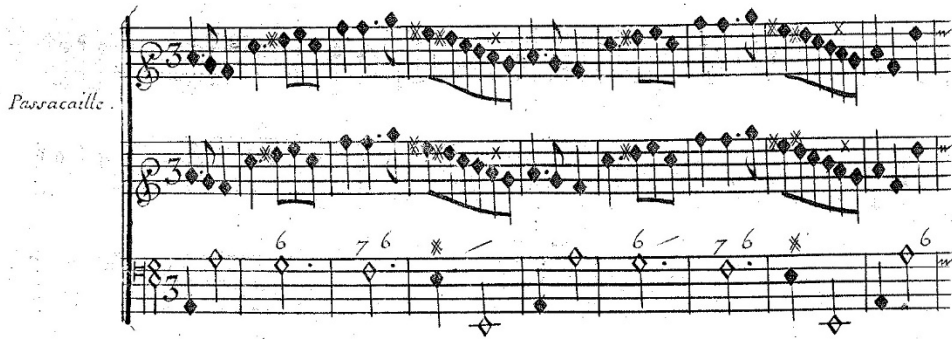
リュリの音楽悲劇《ペルセ》

- キノーの台本で、オヴィディウスの『変身物語』を原作とする歌劇を複数作曲。
《カドモスとエルミオーヌ》(1673) 《テセウス》(1675)
《ファエトン》(1683) 《ペルセ》(1682)
- 《ペルセ》: 古代ローマ神話のペルセウスが主人公。アンドロメダ、メドゥーサなどが登場する。全 5 幕。



▲ リュリ《ペルセ》楽譜より、第5幕への挿絵

- 《ペルセ》から 〈パサカイユ〉
抒情悲劇《ペルセ》の第5幕第8場で踊られる。
ペルセウスとアンドロメダの婚礼を祝福するために、愛の女神ヴェヌスが、
キューピッドとヒュメイナイオス(結婚の祝祭の神)を引き連れて登場する場面である。



▲ リュリ 〈パサカイユ〉 冒頭部分(《ベルセ》第5幕第8場)。

・パサカイユ (パッサカリア) とは？

主に 17 世紀から 18 世紀にかけて用いられた音楽形式の 1 つで、スペインに起源をもつ。オスティナート・バスに基づく 3 拍子の変奏曲。

フランスでは荘重な 3 拍子の器楽舞曲として扱われるように。

→組曲の終曲/音楽悲劇やオペラ・バレエの締めくくりの曲



▲ ジル=マルシェックスによるピアノ独奏用編曲版

3. ジル=マルシェックスの来日リサイタル

アンリ・ジル・マルシェックス (Henri Gil-Marchex 1894-1970)

フランスのピアニスト。

・ディエメ (Louis Diémer 1843-1919)、コルトー (Alfred Denis Cortot 1877-1962) に師事。

- 1911年にパリ音楽院を首席で卒業後、ヨーロッパを中心に活躍。
- 日本滞在中に、帝国ホテルで6夜の演奏会を行いフランス音楽や近現代作品を初演。
- 日本音楽を研究。それをもとに作品を書いたほか、講演、執筆などの活動を行う。
- 1937年は、日本の国際文化振興会から外国人研究者として支援を受ける。

[●白石朝子「アンリ・ジル=マルシェックスによる日仏文化交流の試み」]

1925年の来日リサイタル

1925年、フランスのピアニスト、ジル=マルシェックスが初来日。

薩摩治郎八(1901-76)の肝煎りで、10月～11月にかけて6回の連続リサイタルを開催。

- 3つのテーマ(主観的音楽、追想的音楽、舞踊音楽)×各テーマについて2回のリサイタル
- バロック時代の作品から、古典派、ロマン派を経て、同時代(1920年代)の作品までを網羅
- 当時の日本の楽壇に大きな影響を与える。

[●ミニレク「ラヴェルと日本とフォックストロット」(2018年7月14日実施) 参照]

音楽の温故知新

- 240年後のリュリ/ジル=マルシェックス
- 100年後のジル=マルシェックス/私たち

ジル=マルシェックスと「スナール室内楽シリーズ」

ジル=マルシェックスは作曲・編曲活動も行っており、

その幾つかは「スナール室内楽シリーズ」の一環として刊行されている。

- ラヴェル/ジル=マルシェックス《ティータイムのフォックストロット》(1927年出版)
- リュリ/ジル=マルシェックス《パサカイユ》(音楽悲劇《ペルセウス》より)(1922年出版)
- ジル=マルシェックス《2つの歌曲》(1927年出版)
 1. 果てもなく広がる平原の倦怠のなかに…(ヴェルレーヌ詩)
 2. 隣の女の家のカーテンが…(ミュッセ詩)

*いずれも南葵音楽文庫所蔵。

○主要参考文献

- 白石朝子「アンリ・ジル=マルシェックスによる日仏文化交流の試み——4度の来日(1925-1937)における音楽活動と日本音楽研究をもとに——」、愛知県立芸術大学 音楽研究科 博士後期課程学位論文(平成25年度)
- Henri Gil-Marchex Columbia 78rpm & Broadcast Recordings, Sakuraphon, SKRP78002,2015.
- ピアノ演奏: 上野山彩子/録音: ANIMA(代表・田口雄基) /会場: LURU HALL